



小山台

学校だより
7月号
令和5年6月30日
横浜市立 小山台小学校

夏休みの仕掛け



校長 堀江 公子

連日、蒸し暑い日が続いています。昨日は、ご多用のなか、引き取り訓練にご協力をいただきありがとうございました。学校では、1年生の育てているアサガオがぐんぐん蔓を伸ばし、2年生の夏野菜も次々と実ってきました。また、水泳学習も4年ぶりに再開し、子どもたちは学習のルールを確認しながら、楽しく学んでいるようです。

さて、先週の6月23、24日、6年生は日光修学旅行に行ってきました。この旅行で、子どもたちは普段生活している横浜とは違う空気の中で、自然の雄大さに触れ様々な人々と出会い、感動や感謝を素直に言葉や表情に表していました。そして、家庭を離れ、友達や先生と過ごすことで、助け合い協力することの大切さを感じました。6年生にとって、学校の中では学ぶことができない、貴重な経験をすることができた2日間でした。

学校の中では学ぶことができない経験といえ、早いもので、7月21日(金)から「夏休み」が始まります。お子様にとって「夏休み」とは、どのような意義があるものなのでしょうか。「これまで以上に学力を伸ばす機会」「趣味を充実させる機会」「家族との絆を強める機会」「多くの友達と関わる機会」など、様々な思いがあります。そこで、子どもたち一人ひとりが様々な思い・願いをもちながらも、身近な大人が次の3つの仕掛けをすることによって、これまでとはひと味違った夏休みを過ごすことができるのではないかと思います。ご紹介させていただきます。

1 お子様が自分を好きになる仕掛け

子どもたちが健全に成長していくためには、自己肯定感や自己有用感がとても大切になってきます。「あなたの素晴らしいところは～だね。すごいね。」「あなたの～は、みんなを元気にしてくれるね。」などの言葉を、身近な大人が意識して投げかけてみてはいかがでしょうか。

2 家族の一員として力を発揮することができる仕掛け

「夏休みには、家のお手伝いを進んでやりましょう。」と言われ続けてきたと思います。その時々単発的なものだけでなく、無理なく継続的にできるお手伝いを一つ、お子様と相談して決めてみてはいかがでしょうか。その際、「次もやってみよう。」と思えるような「ねぎらいの言葉がけ」が大切だと思います。特に、高学年のお子様に対しては、「お手伝い」にとどまらず、「家族の一員としての役割」を意識させることも必要です。

3 地域の一員であることを意識させる仕掛け

夏休みには、地域を意識することができるものが多くあると思います。イベントだけではありません。ゴミ集積所の様子や町内会・自治会の掲示板など、ふだん見過ごしてしまうことも自にするゆとりがあると思います。ご家族の方がお子様と一緒に様々な発見をすることで、お子様も「自分も地域の一員だ」ということを、これまで以上に意識すると考えます。

交通事故には十分気を付け、夏休み明けにお子様が無事に登校してくる姿を楽しみにしております。どうぞ、よろしく願いいたします。



子どもたちの学校生活の様子については、小山台小学校のホームページ「学校日記」に随時掲載しています。ぜひご覧ください。

